明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　櫻井　弘
令和４年１１月日
第７号

「調べる」から「考えをもつ」へ

校長　櫻井　弘

現在も基礎・基本を学ぶには、調べて理解することや反復練習をして確実に自分の力としていくことが大切です。では、「基本を身に付けた」その次の段階はどう学びを進めればいいのでしょうか。社会で求められる人物像から、逆に考えてみることで「どのような力（スキル）」を身に付ける必要があるのかが分かってきます。

例えば、時代で言えば昭和から平成初期の社会は、オペレーションを疑うことなくみんなが同じであることが求められた時代と見ることができます。しかし、平成半ばから令和にかけての現在は、「他者と異なる意見をもつことが価値の源泉である」という価値観がイノベーションとなる時代へと変化しています。全員横並びでは、なかなか「斬新な」「新たな」技術革新の創造にたどり着くことが難しいということだと思います。（※オペレーション：物事を運営・推進する手順を定めること。また、それに沿って実施する一連の作業　　※イノベーション：物事の「新機軸」、「新しい切り口」）

ＩＴの技術革新やＡＩの登場により、調べればわかる分野で人間が価値を出す（力を発揮する）のは今後さらに難しくなります。確かにスマホさえあれば膨大なビックデータから、必要な情報を瞬時に調べることができてしまいます。このようなことから人物像を想像すると、「正解のある問題の解答を探すのは上手いが、正解のない問題に直面すると、なかなか自分で考えて意見が決められない（まとめられない）人」は苦労することになるかもしれません。逆にそこで必要とされる人は、「正解のない問題に直面しても、考えをまとめ自分自身の意見として発信（伝えることが）できる人」となるのではないでしょうか。

では、そのような力を付けるために学校ではどのようなことをしているでしょうか。学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」というキーワードがあります。実際の授業場面を思い浮かべてください。以前の授業形態より「話し合い活動」「教え合い」「ペアワーク」「班活動」やワークシートで、考えを発表したりを書いてまとめたりすることが増えていると思います。「自分の考えや意見」をもつことを大切にしているということです。皆さんは、この機会を有効に使えているでしょうか。意見を求められているときに「分かりません」と言ってしまったり、意見を言うことを遠慮してしまったりしていないでしょうか。

（参考文献「自分の意見で生きていこう」（ちきりん著））